

留学 の 現 場 か ら

フランス留学体験記

中野 雄星

(なかの ゆうせい)
人文学部 3年

私は2019年の9月から2020年の3月まで、フランスの北部のノール県にあるリール第三大学に留学していました。主な目的はフランス語の習得や文化体験が目的でした。そしてリール第三大学にあるフランス語を学ぶ外国人のための学部にて在籍していました。自分のクラスには、韓国や中国、ケニア、トルコ、イラク、アルジェリアの人たちがいて、お互いクラスメイトとして一緒にフランス語やフランス文化だけでなくそれぞれの学生の国の文化も学ぶことができました。また、大学ではよく国際的なイベントが開催されます。その中でも学内のカフェで毎週行われるイベントではいろいろな国についてどんな言語でも自由に話すことができるため、多くの人と知りあって友達になることができ、そして自分のフランス語能力を鍛えることもできました。

大学の近くにはリールという大きな町があります。そこには大きな駅や、レストラン、カフェ、バー、洋服店、ショッピングモールなどがある大きな通り、大広場、美術館、大聖堂、オペラ劇場が所狭しと並んでいます。またフランスの伝統的な建物や街並みが残っている旧市街もあるため、常に多くの人でにぎわっています。旧市街は、レンガ造りの道路に教会、伝統的な建物や広場があります。街並みがとてもきれいでおしゃれなので散歩するだけでも、とても楽しむことができます。中心街から離れると昔の大きな要塞跡地があり自然や歴史を楽しむこともできます。町には地下鉄が通っており、またバスの本数も多いため、気軽に街中へ移動できます。リールはフランス人以外にも多くの外国の方が住んでいる国際的都市のひとつのため、とても多様で刺激のある生活を送ることができるので、もし機会があればぜひ行ってみてください。



リール商工会議所の鐘楼

※留学体験記の学年は2020年当時のものです。

体験こそ人生

梁 梓珊

(りょう しさん)
大学院人文科学研究科 修士2年

山口大学へ留学に来たのは2019年の4月のことでした。

4月3日の午後、オリエンテーションが行われた後、先生が新入生を連れて大学院生研究室に行きました。研究室には、パソコン、印刷機、本棚、冷蔵庫、電子レンジなど基本的な学習設備と生活設備が揃っています。また、少し小さいけど、人文学部は独自の図書館もあります。中国の出身大学と比べて、優れた学習環境が整っている日本の大学生を、羨ましく思いました。

私は文化人類学・民俗学を専攻として勉強していますが、まだまだ専門知識が不足しているので、修士1年生の時から指導教官の学部生のゼミにも出席しています。外国人の私にとって、ゼミという授業形式はちょっと新鮮味がありました。授業は、基本的に4年生の研究発表や、3年生の文献発表を聞いて、発表後、ゼミ生は一種の約束のように、どんどん発表者に質問をします。つまり、皆は疑問を持つ気持ちで発表を聞くので、学生の問題意識が培われるのではないかと考えています。逆に、発表者も答えるうちに自分の考えを整理し、どうやって説明するのか、他の人が理解できるようになるのか、などに工夫をこらしながら、自分の言語表現力を高めると思います。また、自分が関心を持っていないことでも、質問されたら、「なるほど、その点はもっと説明すればいいのか」など、何かヒントを貰うこともあります。

最後に、人文学部生の生活に触れてみたいと思います。3、4年生になると、専門分野ごとに自分たちの学生研究室を利用できます。研究室で月に一回ぐらいの頻度でイベントを企画し、行います。指導教員たちも参加するので、そこで先生との交流もできます。授業をするときはいつも厳しく指導してくれたり、授業後は優しく友人のように接してくれています。山口大学に来て、先生と学生の距離が近いという点も感心しました。

いつも日本の大学生は幸せだなと思っていますが、今は自分も山大学生の一員なので、山口大学での学生生活を大切にしていきたいと思っています。



防府天神おんな神輿にて